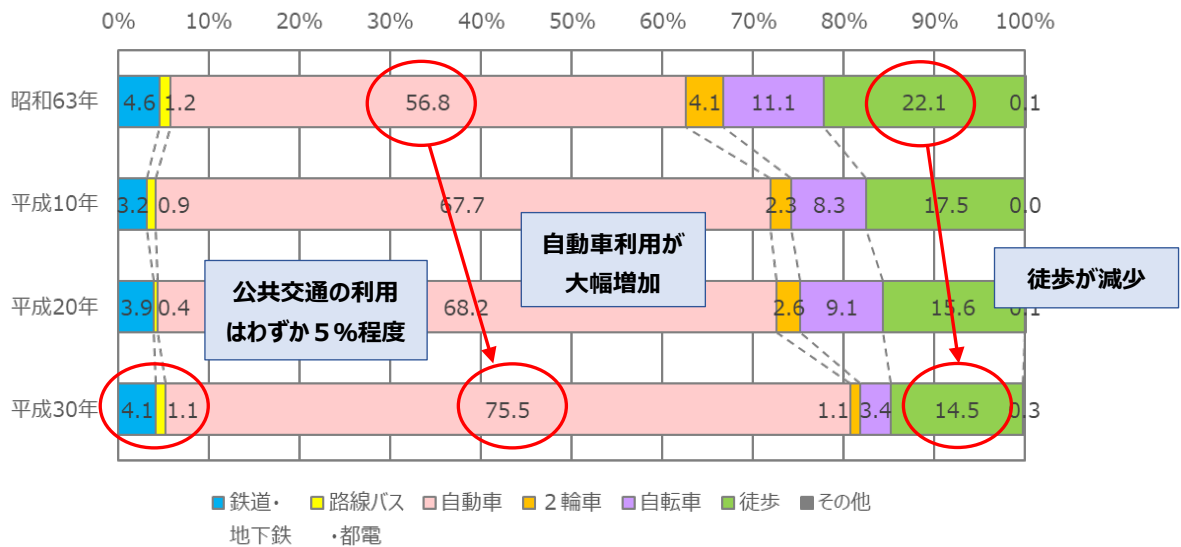


(3) 都市交通

1) 公共交通の利用実態

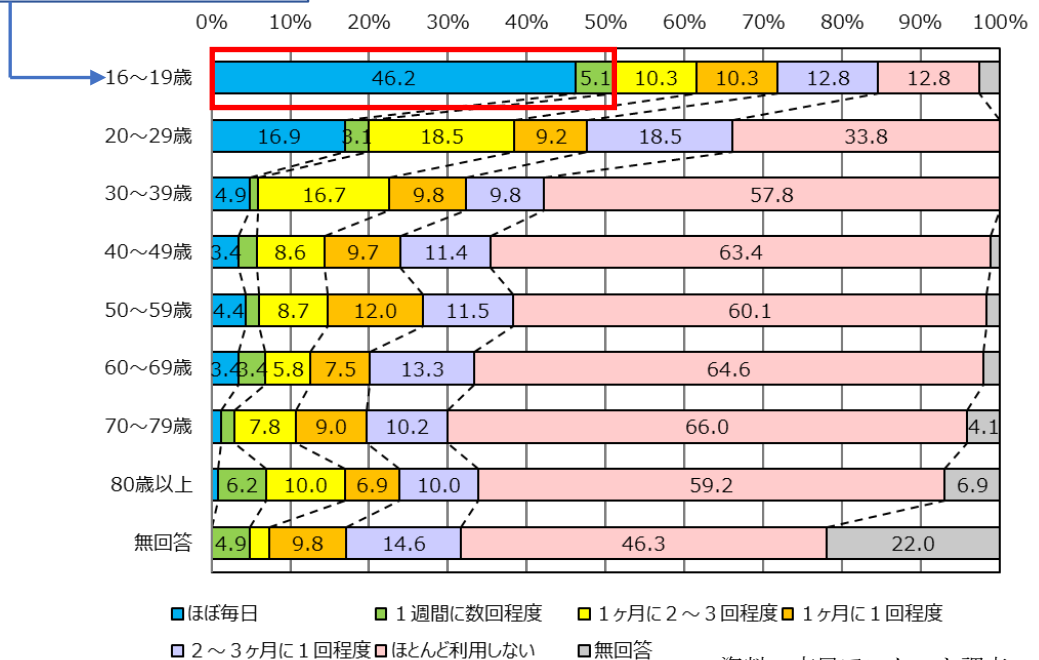
- ・市民の主な移動手段は、自動車が7割以上を占めており、その割合が高まる一方、徒歩の割合は減少しています。一方で公共交通の分担率は鉄道で4.1%、バスは1.1%に留まっています。
- ・市民アンケート調査から公共交通の利用頻度をみると、高校生の年代では公共交通の利用割合が他の年代と比較し圧倒的に高く、通学を含む日常生活において、公共交通が重要な役割を果たしています。

＜主な交通手段の分担率＞



高校生の年代では、公共交通を「ほぼ毎日」もしくは「1週間に数回程度」利用する割合が過半以上を占め、日常の移動手段となっている。

＜公共交通の利用頻度＞

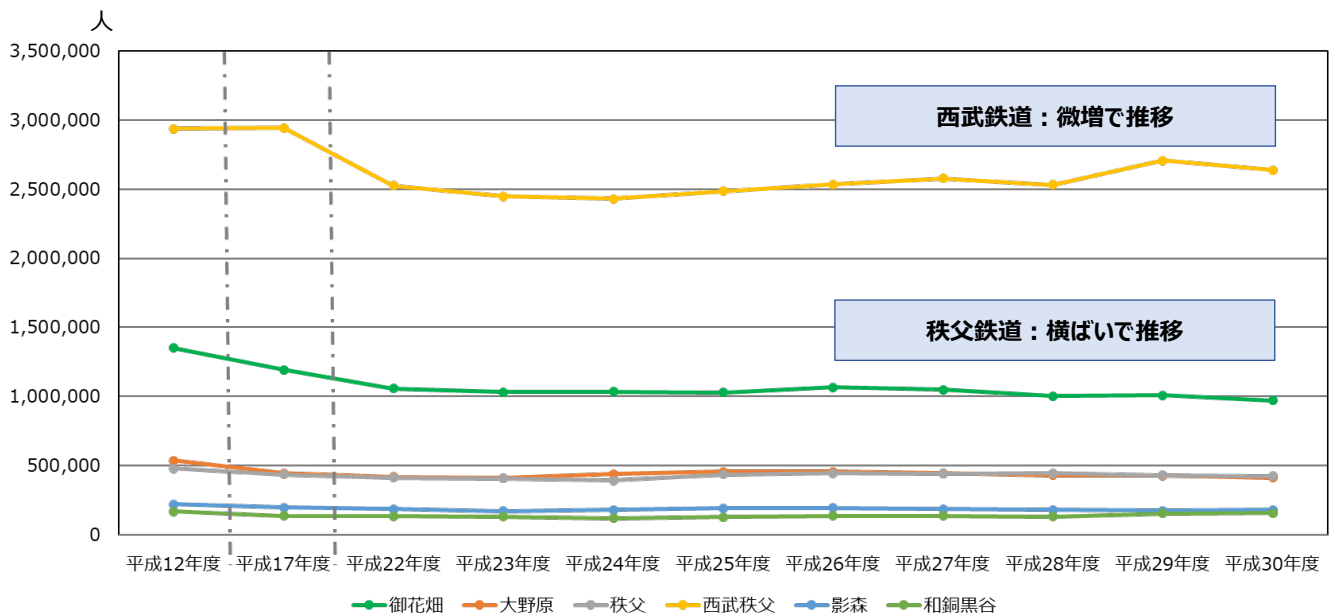
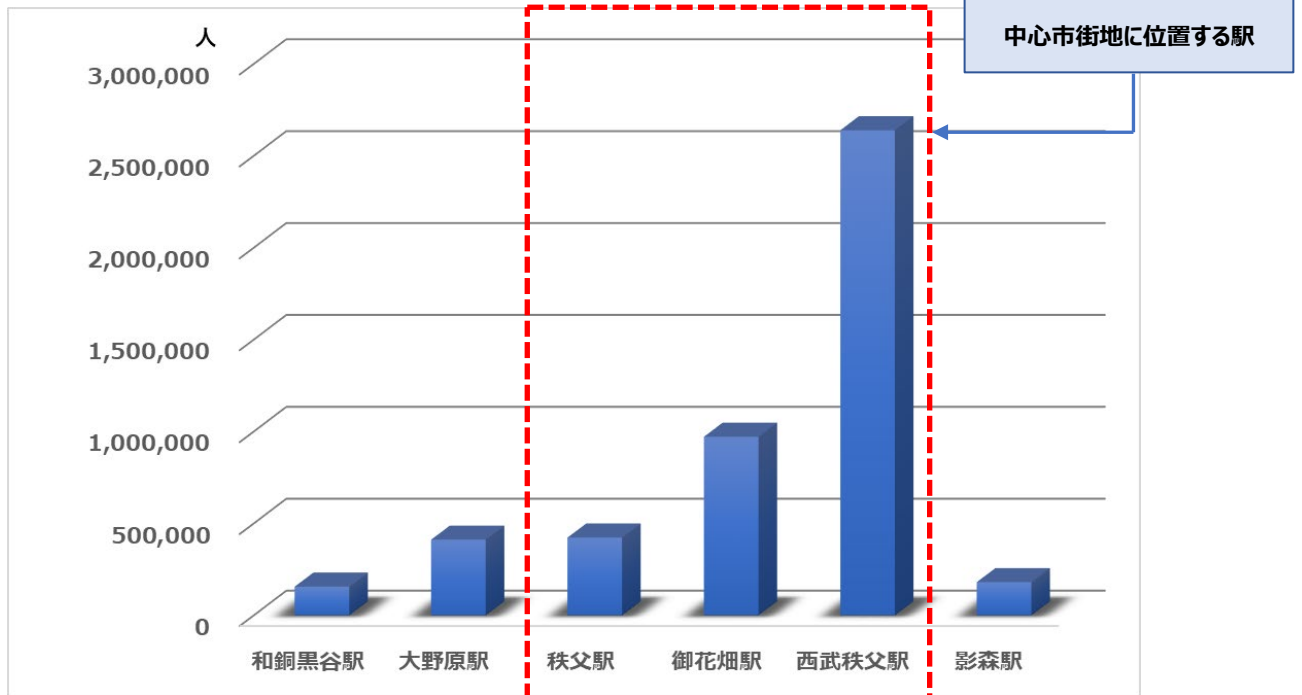


2) 公共交通の利便性

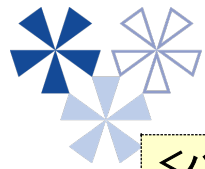
＜鉄道＞

- ・ 駅別の年間乗降客数は、西武秩父駅が250万人を超えており、近接する御花畑駅とともに、公共交通の要となっています。
- ・ 西武鉄道は、平日の日中で普通列車2本/時、特急列車1本/時を基本に運行されています。
- ・ 秩父鉄道は、平日の日中で普通列車2本/時程度運行されています。
- ・ 鉄道利用者の推移をみると、人口が減少する中であって、平成22年以降、西武鉄道は微増、秩父鉄道は横ばい傾向にあります。

＜駅乗降客数(平成30(2018)年)＞



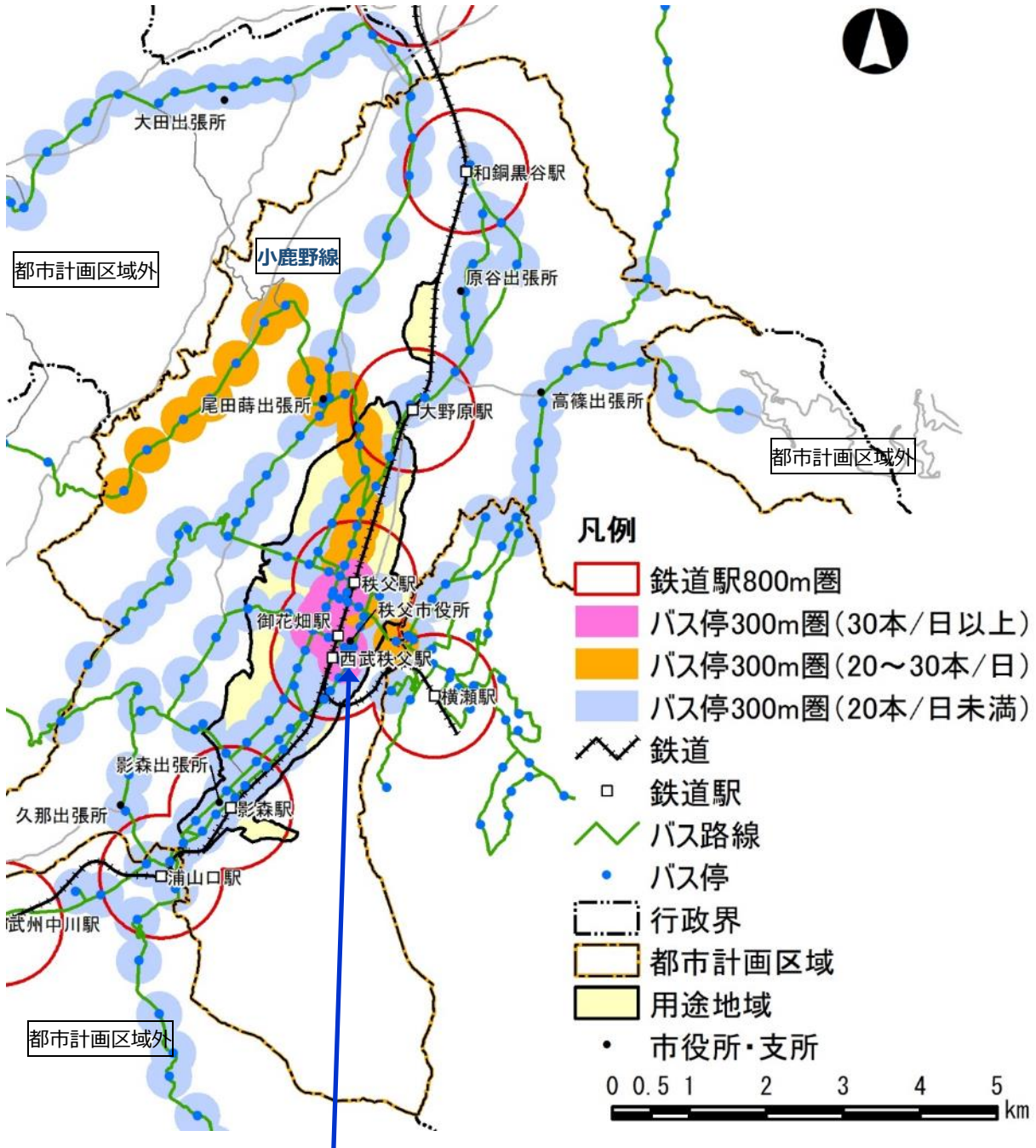
資料：埼玉県統計年鑑



<バス>

- ・路線バスは、西武秩父駅を起点に市内各地や周辺都市を結ぶ路線が運行されています。
- ・30本/日以上バス利便エリアは中心市街地付近に限られますが、小鹿野町方面を結ぶ「小鹿野線」で20本/日以上バスが運行されており、路線バスの利便性がやや高い状況にあります。

<鉄道・バス路線網図>



西武秩父駅は乗降客数が最も多く、路線バスの起点でもあることから、近接する御花畑駅を含め、公共交通の要となっている。

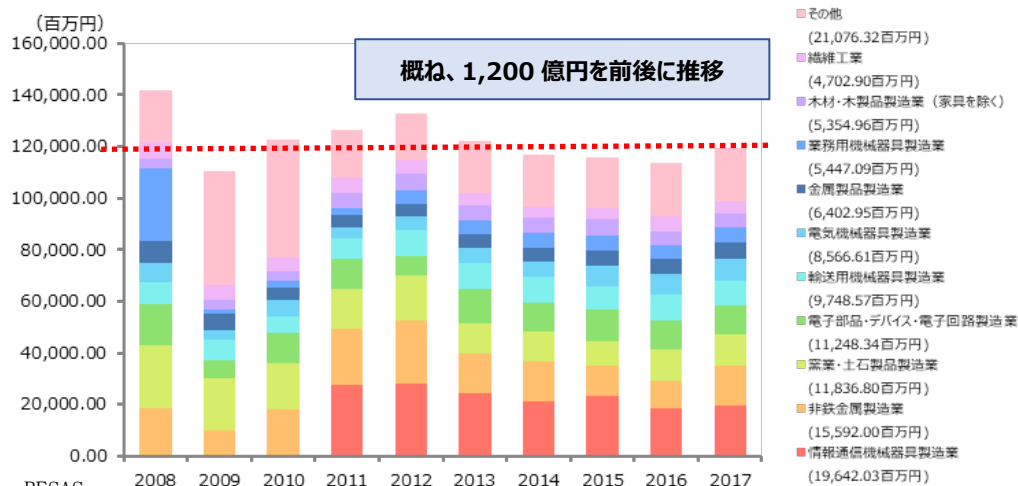
資料：西武観光バス、市民生活課

(4) 経済活動

1) 製造業等の動向

・製造品出荷額は、概ね1,200億円を前後に推移しています。また、2011(平成23)年以降、情報通信機器器具製造業が一定の製造品出荷額を担っており、市の産業、雇用を支える柱のひとつとなっています。

＜産業別製造品出荷額等の動向＞



資料：RESAS

【出典】経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

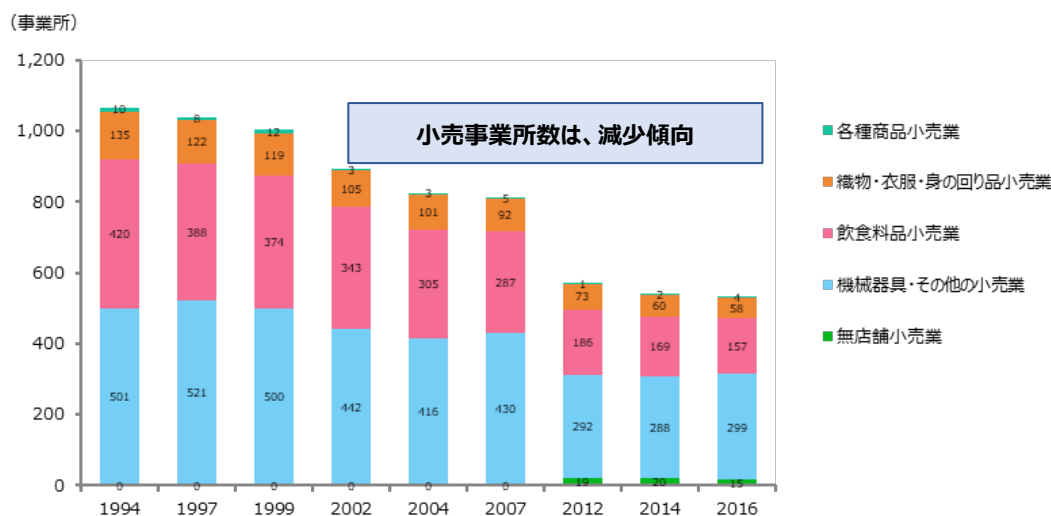
【注記】凡例の数値は最新年の数値を指す。

【その他の留意点】従業員数4人以上の事業所が対象。RESAS(地域分析システム)

2) 小売事業所数の動向

・小売事業所数は減少傾向にあり、1994(平成6)年と2016(平成28)年を比較すると、総数で約半数に減少しています。

＜産業別小売事業所数の動向＞



資料：RESAS

【出典】経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

【注記】2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間(表示年)の比較が行えない。

【その他の留意点】RESAS(地域分析システム)

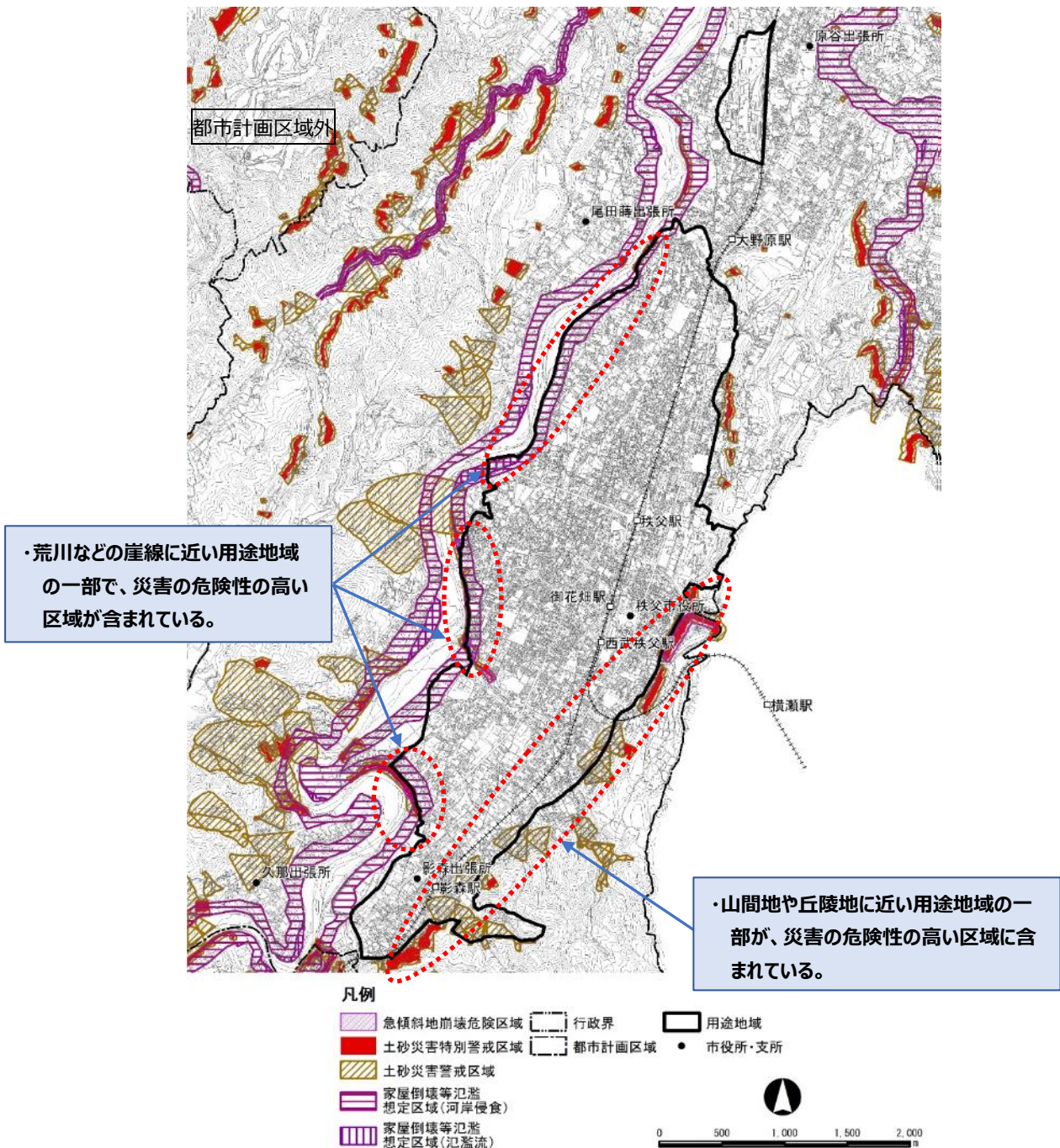


(5) 災害

1) 災害の危険性

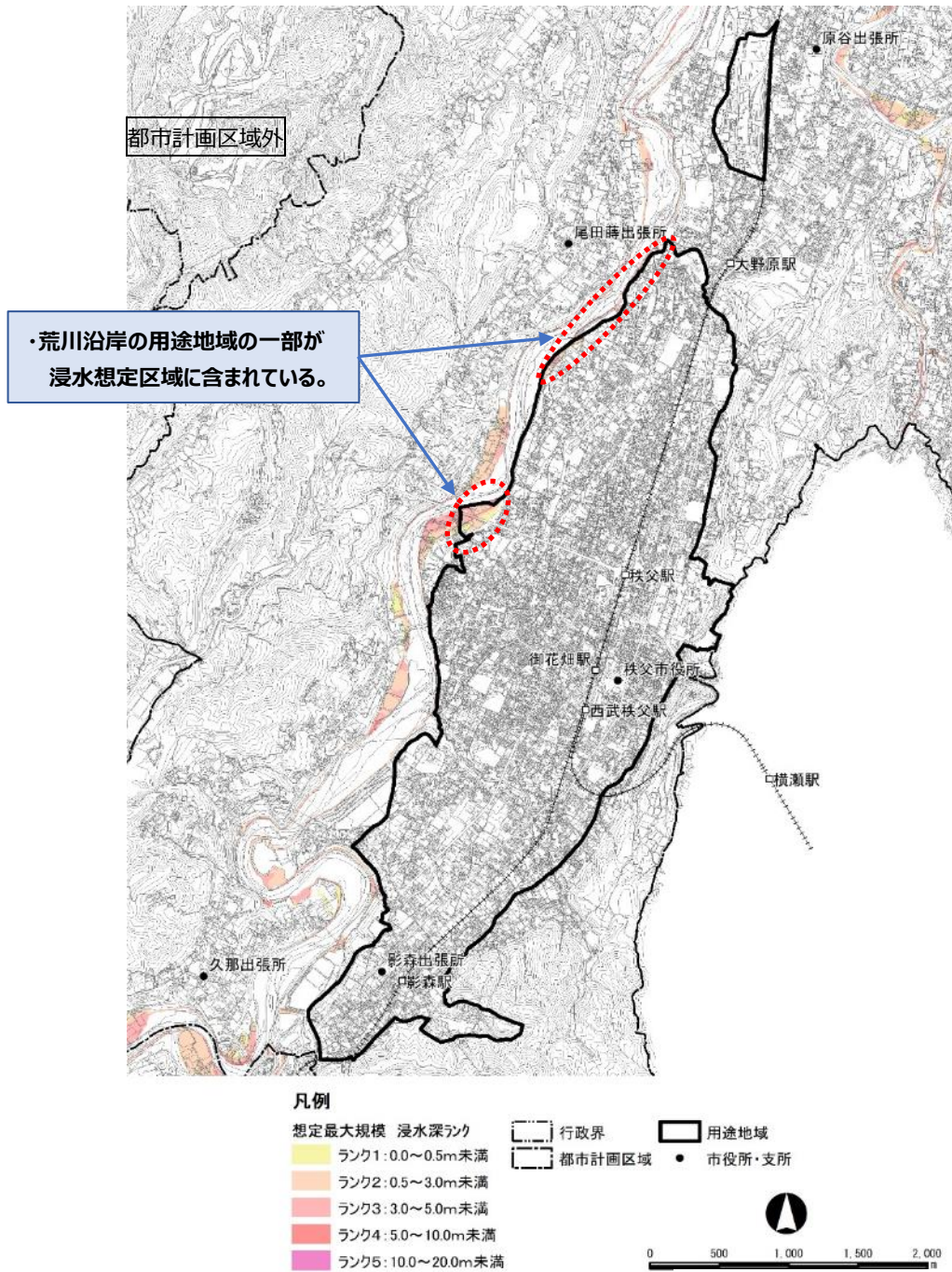
- ・都市計画区域全体では、山間地や丘陵地が広がっているため、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害（特別）警戒区域などが点在しています。また、川沿いに沿って家屋倒壊等氾濫想定区域、低位な場所ですところどころ浸水想定区域がみられます。
- ・用途地域内においては、災害ハザードエリアは少なくなっていますが、丘陵地や河川の崖線に近いところが急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害警戒区域、家屋倒壊等氾濫想定区域に含まれるほか、秩父公園橋付近には浸水想定区域に含まれる場所があります。

<災害ハザードエリア>



資料：危機管理課、県河川砂防課資料

<災害ハザードエリア 浸水想定区域（想定最大規模）>



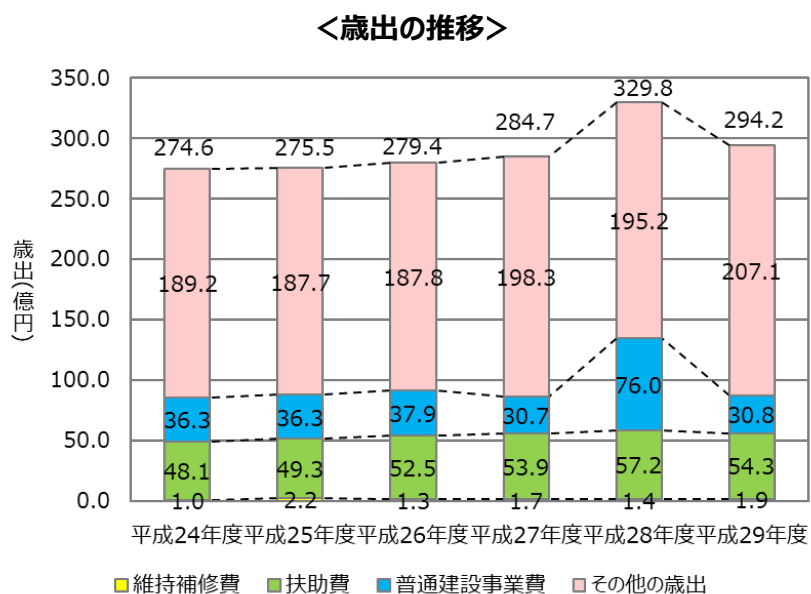
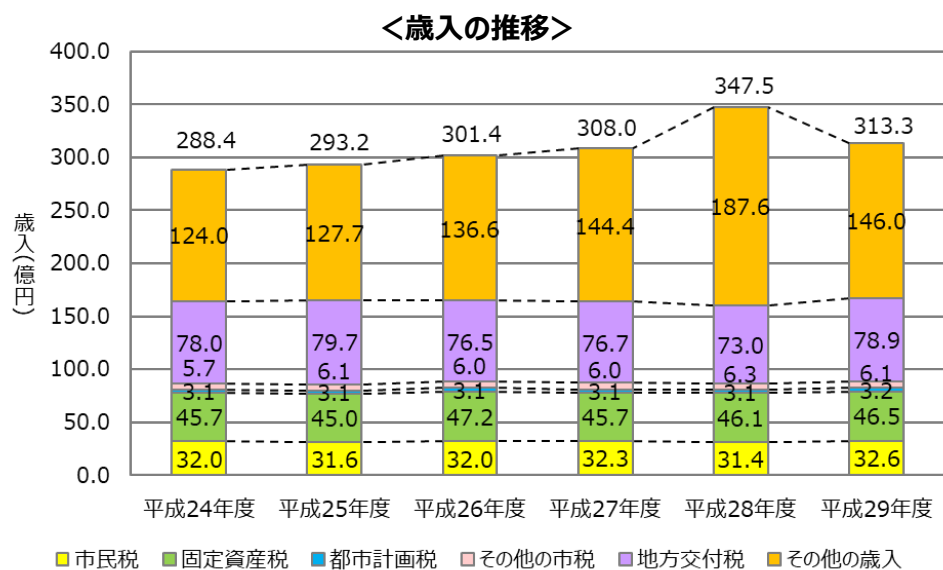
資料：県河川砂防課資料



(6) 財政

1) 歳入・歳出の推移

- ・歳入の推移をみると、市民税、固定資産税などに大きな変化は無いものの、その他の歳入が微増していることもあり、歳入全体も微増傾向にあります（本庁舎・市民会館建設事業に伴う基金が含まれる平成28年度を除く）。
- ・歳出は、普通建設事業費が減少する一方、扶助費が増加傾向にあります（本庁舎・市民会館建設事業に伴う普通建設事業費が増加した平成28年度を除く）。



資料：財政状況資料集

2) 公共施設等更新費用の推計

・今後、公共施設や道路、下水道などインフラ資産を維持・更新していくための費用の増大が想定されており、「秩父市公共施設等総合管理計画（二訂版）」における試算によると、今後40年間にかかる更新費用の総額は、これまでの1.8倍になると推計され、また、人口減少を考慮した一人あたりの負担額は2.6倍になると推計されています。

＜更新費用の推計＞

■投資実績と更新等費用の比較

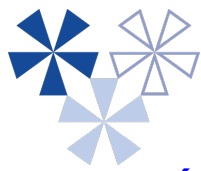
	過去5年投資額 H25～H29	今後の推計 (更新等費用)		倍率 B/A	備考
	単年平均 A	40年累計	単年平均 B		
公共施設 (普通会計)	22.0億円	1403.0億円	35.1億円	1.6倍	
道 路	5.4億円	458.6億円	11.5億円	2.1倍	
橋りょう	2.2億円	144.8億円	3.6億円	1.7倍	
小 計	29.6億円	2006.4 億円	50.2億円	1.7倍	
下 水 道	2.7 億円	317.3億円	7.9億円	2.9倍	
合 計	32.3 億円	2323.7億円	58.1億円	1.8倍	

＜人口減少を考慮した将来負担の推計＞

■人口減少を考慮した将来負担の推計

人 口	過去5年平均投資額		今後の推計		倍率 B/A
	63,555人 (平成27年国勢調査人口)		41,073人 (H57年推計)		
	単年平均		単年平均		
	更新費用	一人当たりA	更新費用	一人当たりB	
公共施設	22.0億円	34,668円	35.1億円	85,399円	2.5倍
道 路	5.4億円	8,464円	11.5億円	27,914円	3.3倍
橋りょう	2.2億円	3,444円	3.6億円	8,814円	2.6倍
計	29.6 億円	46,575 円	50.2億円	122,126 円	2.6倍

資料：秩父市公共施設等総合管理計画（二訂版）

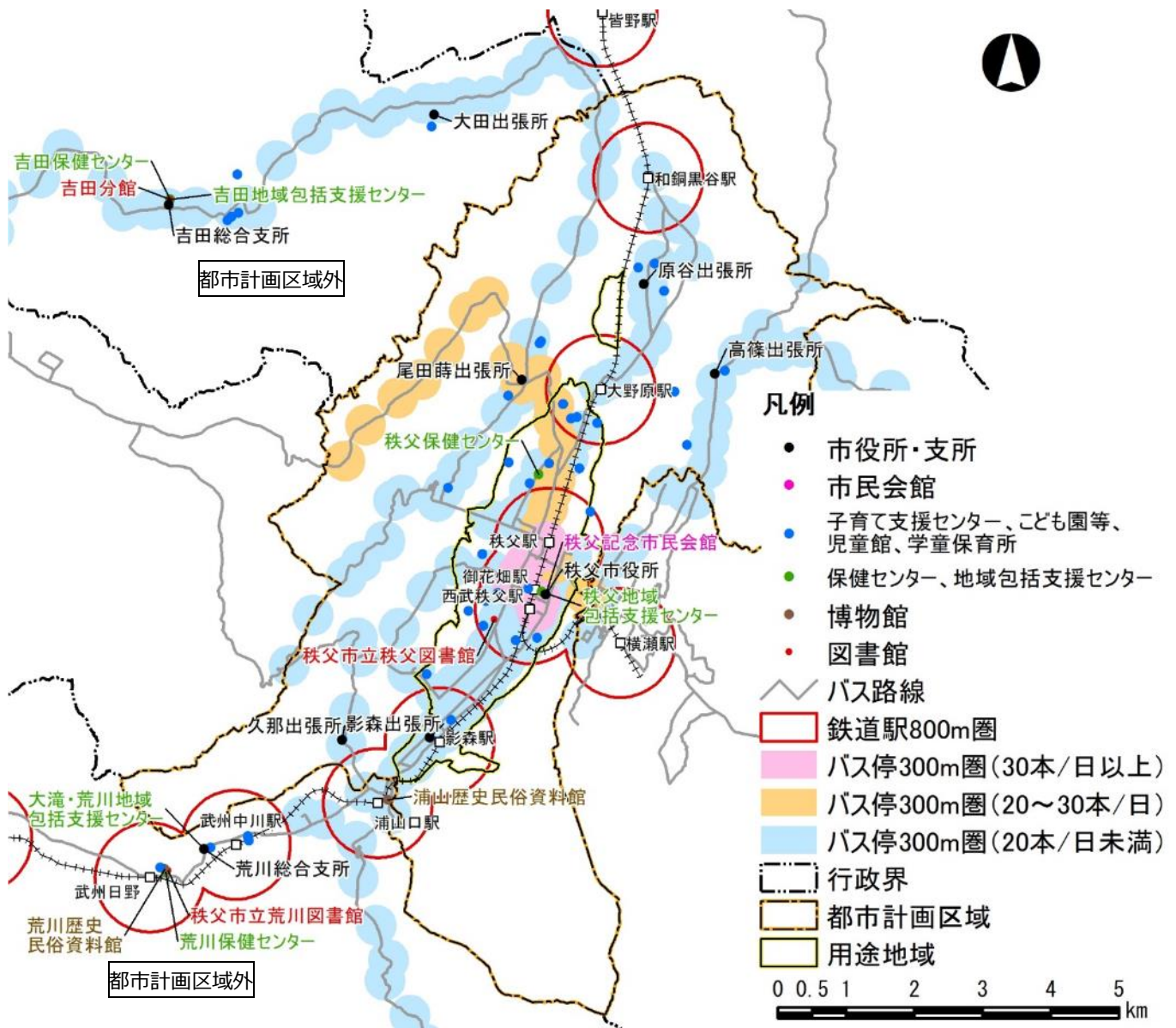


(7) 都市機能

1) 公共施設の配置状況

・公共施設は、その機能に応じて地域や地区に分散して配置されており、市役所は市民会館など市民全体を対象とする主だった施設は、中心市街地（西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺）付近に配置されています。

＜公共施設の配置状況＞

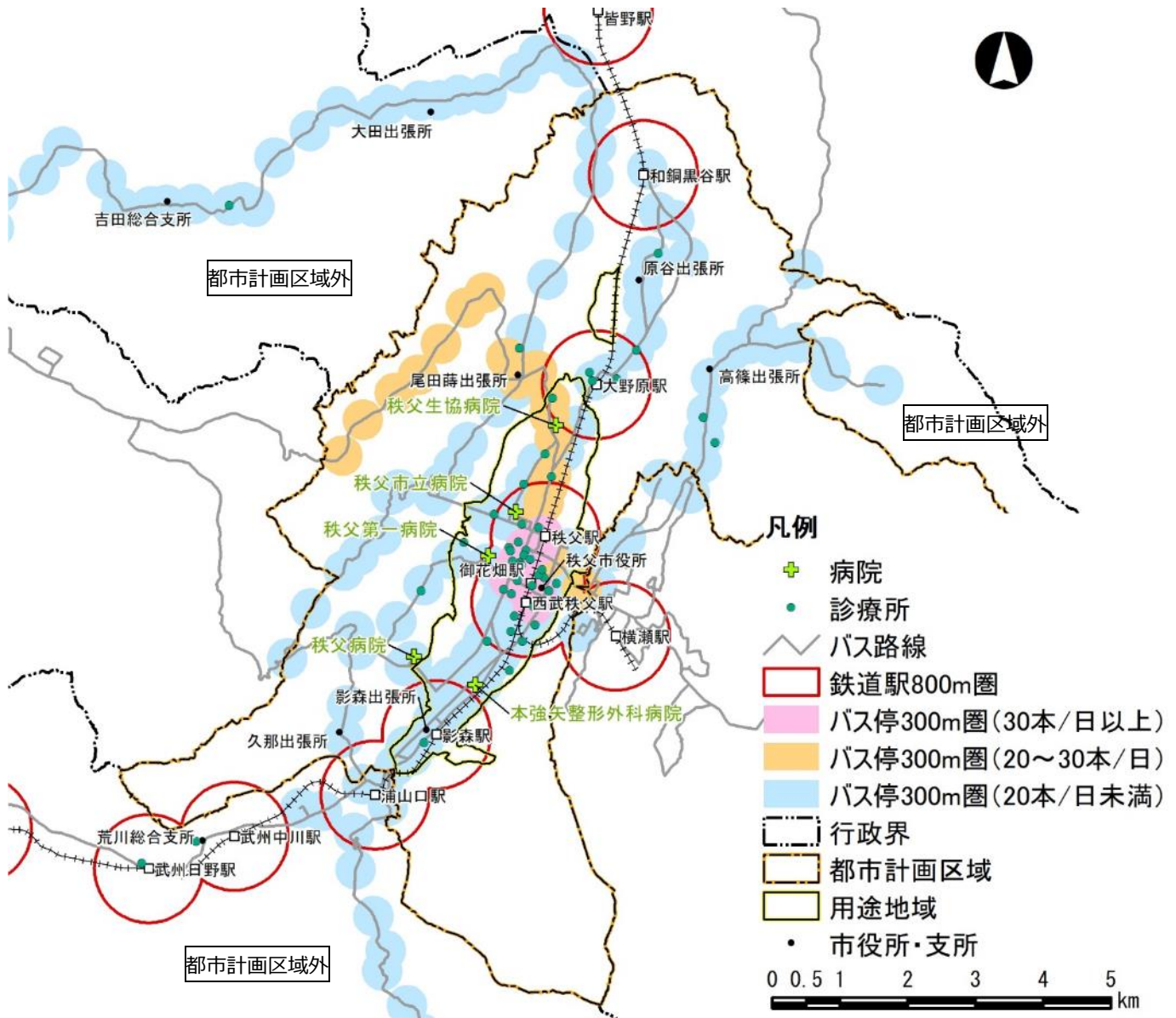


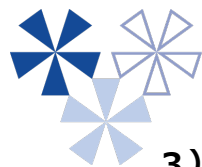
資料：庁内資料

2) 生活支援施設の立地状況 (病院・診療所)

- ・病院は、秩父市立病院や秩父第一病院が中心市街地（西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺）付近に立地する一方、用途地域内外を含めた郊外部にも点在しています。
- ・診療所は、多くが中心市街地付近に立地していますが、地域各所にも点在し、地域や地区の暮らしと安心を支えています。

<病院・診療所の立地状況>

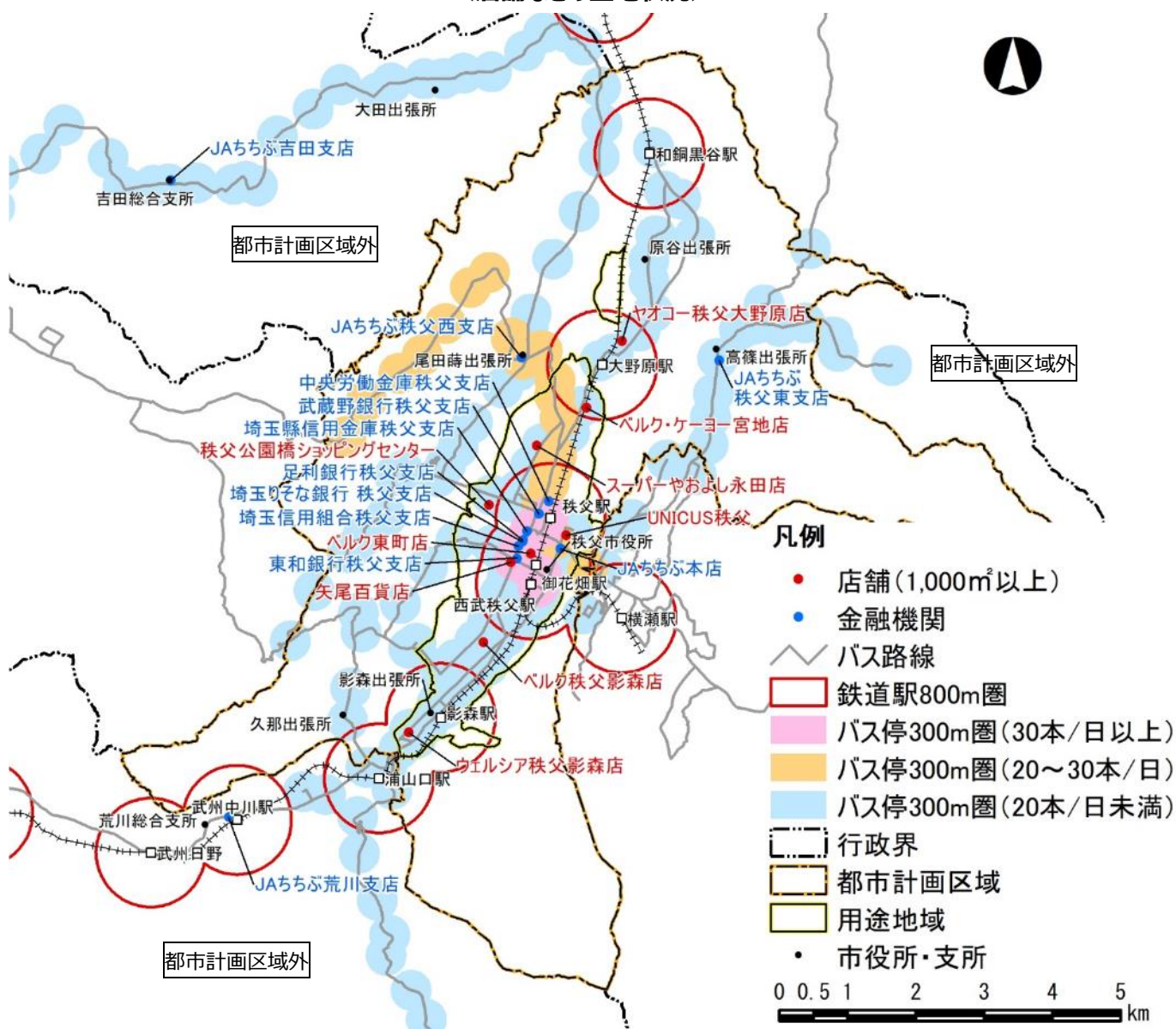




3) 生活サービス施設の立地状況（店舗など）

- 生活サービス施設のうち、市の商業を代表する矢尾百貨店やユニクス秩父が中心市街地（西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺）に立地するほか、比較的規模の大きい1,000㎡以上のスーパーマーケットやドラッグストアなどが幹線道路の沿道に立地しています。
- 金融施設は、ほとんどが中心市街地内の都市計画道路中央通り線沿いに立地しています。

＜店舗などの立地状況＞



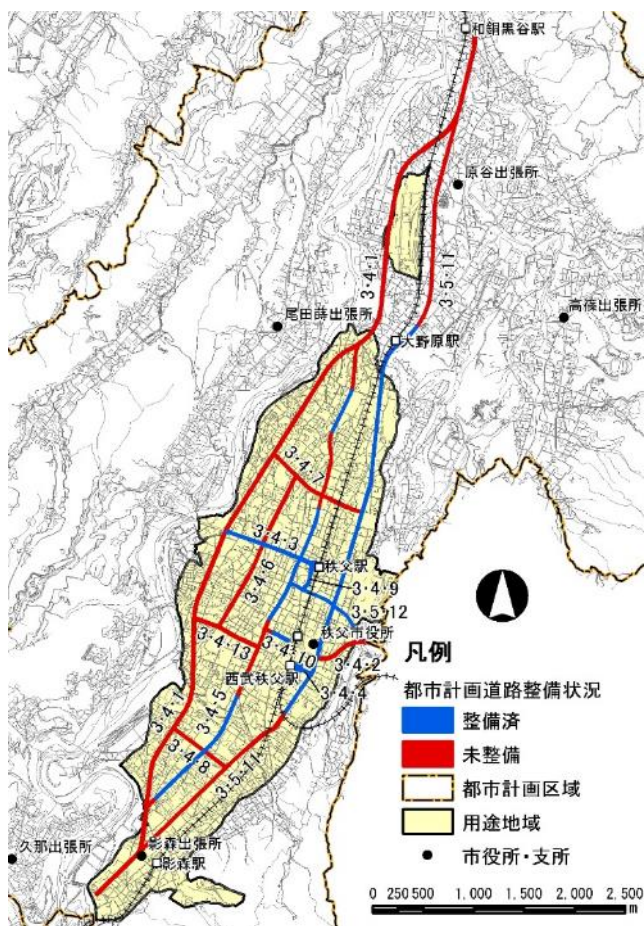
資料：庁内資料

(8) 都市施設

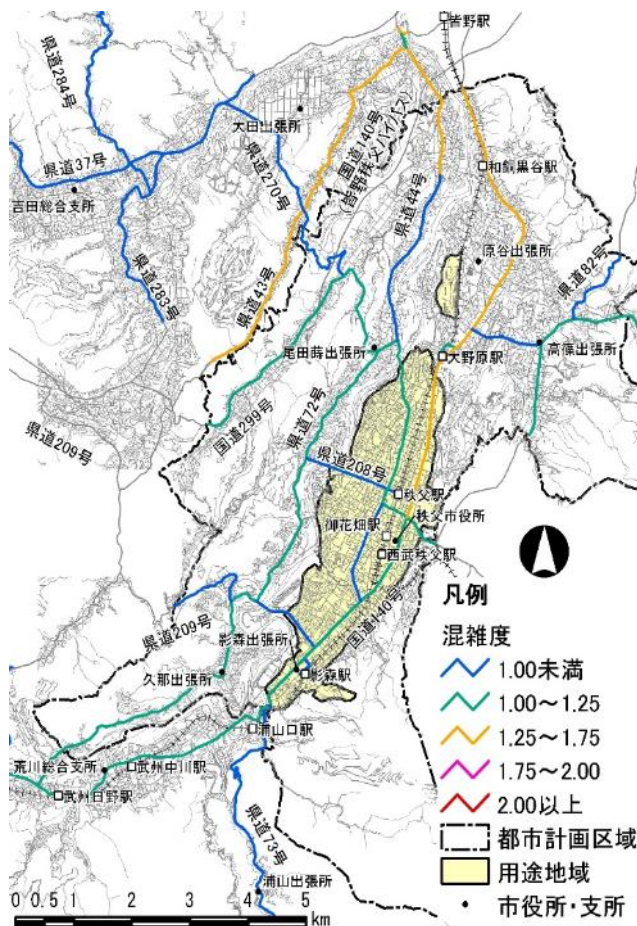
1) 都市計画道路

・市街地における都市計画道路の整備率は32%（平成30年度末時点）と低く、自動車交通が集中する国道や一部の県道で道路混雑が発生しています。

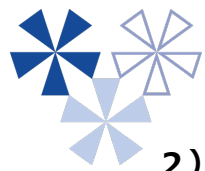
<都市計画道路の整備状況>
(平成平成 30 年度末時点)



<幹線道路の混雑度>
(平成 27 年交通センサス)



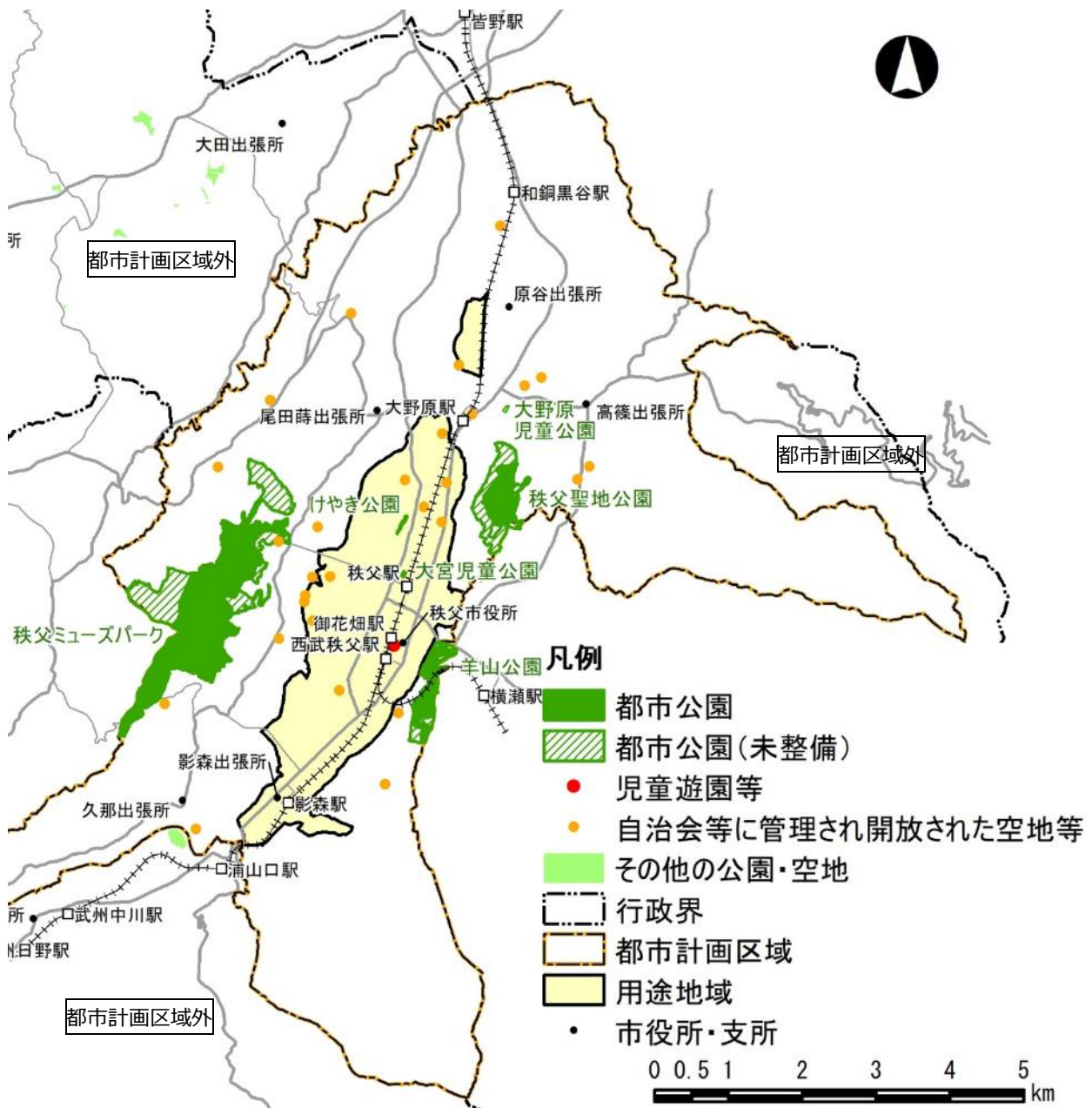
資料：都市計画課資料、道路交通センサス



2) 公園

・公園は、周辺の丘陵地に大規模な公園が整備される一方、用途地域が指定される市街地では身近な公園やオープンスペースが不足しています。

<公園の整備状況>

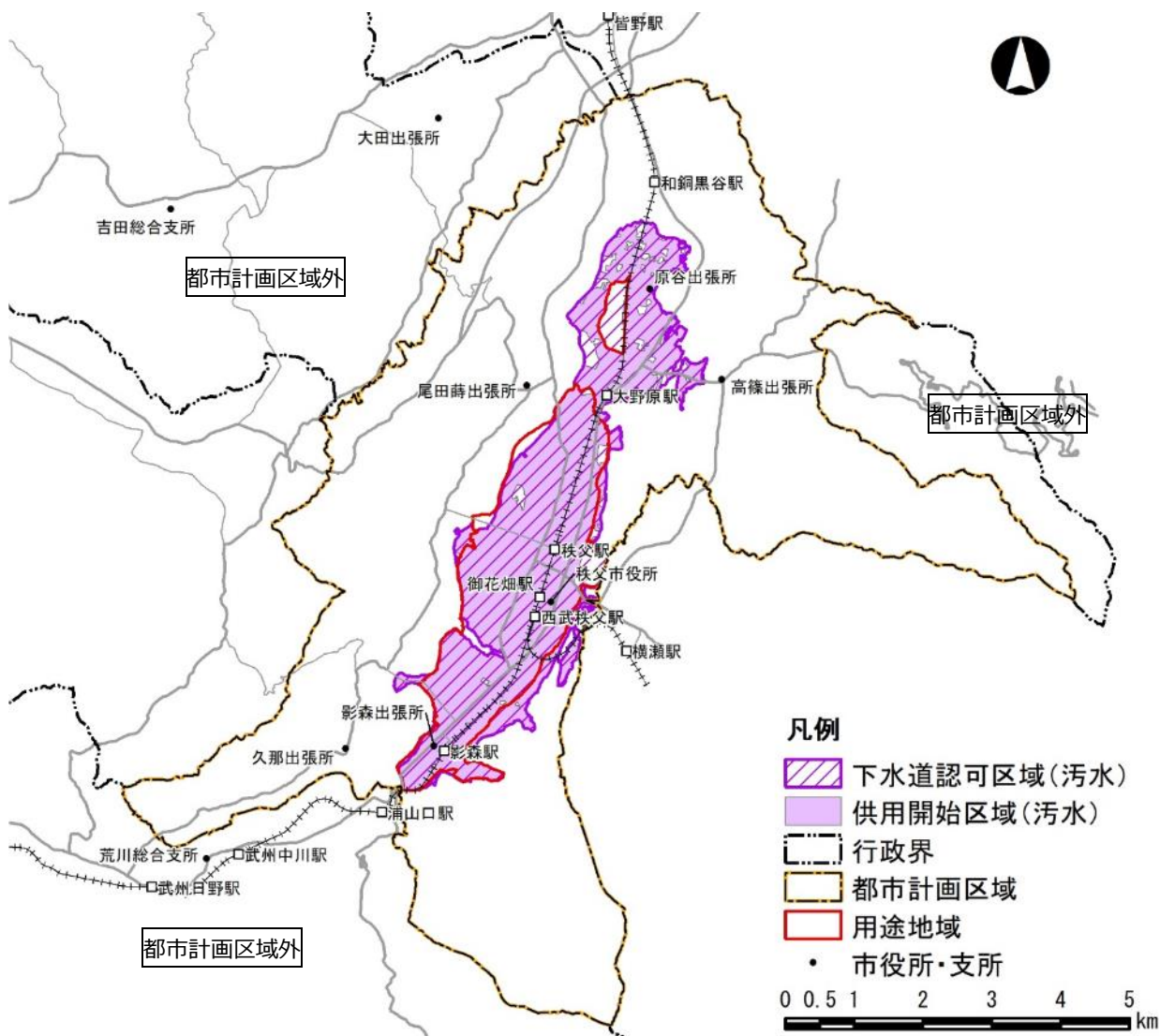


資料：都市計画課資料

3) 下水道

- ・下水道（污水）は、用途地域内及び用途の定めのない地域においても大野原地区で供用開始済みとなっています。
- ・下水道（雨水）は、用途地域の北部と南部に一部未供用の区域が残されていますが、いずれも認可区域となっています。

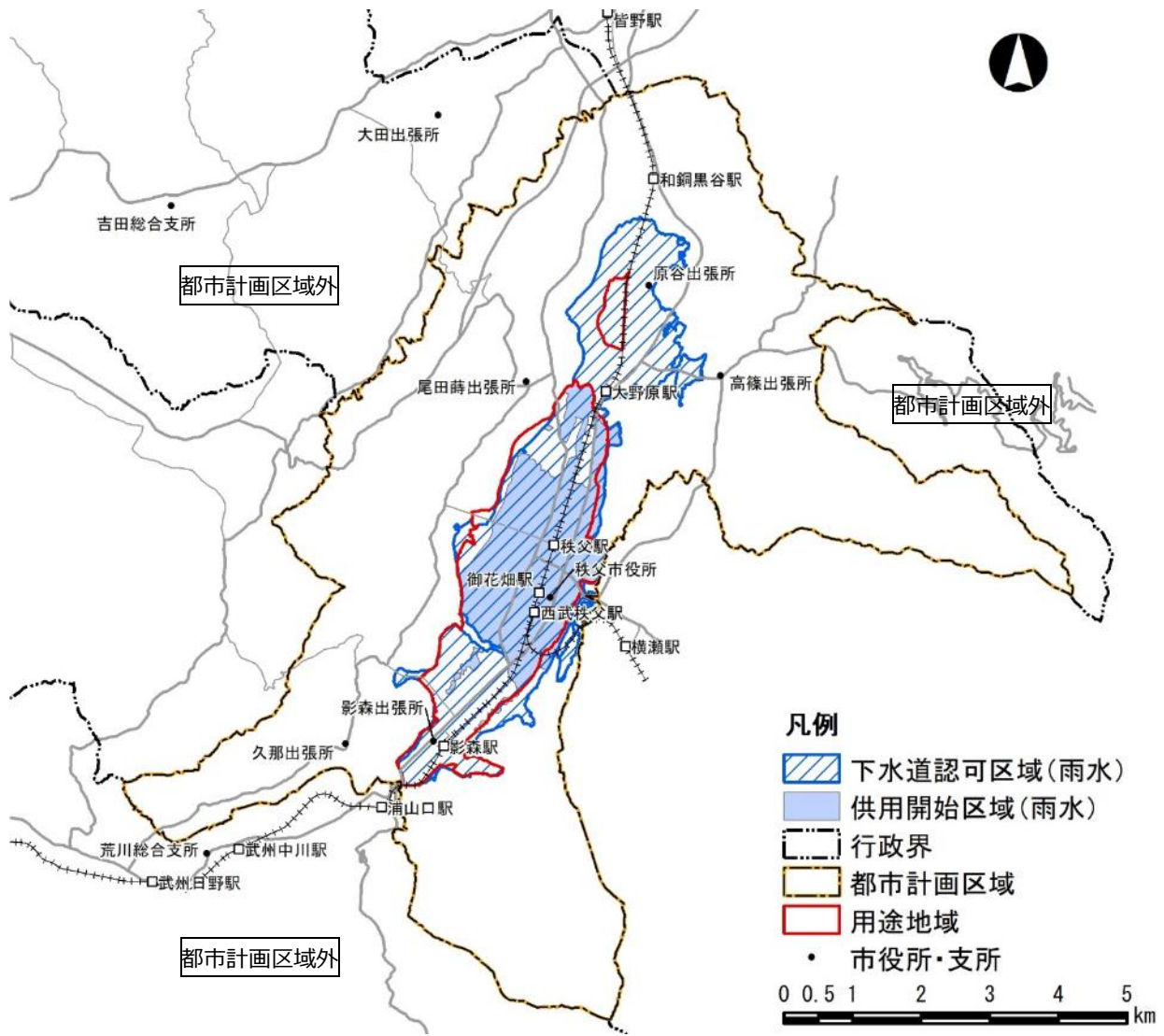
<下水道（污水）の状況>



資料：下水道課資料



<下水道（雨水）の状況>

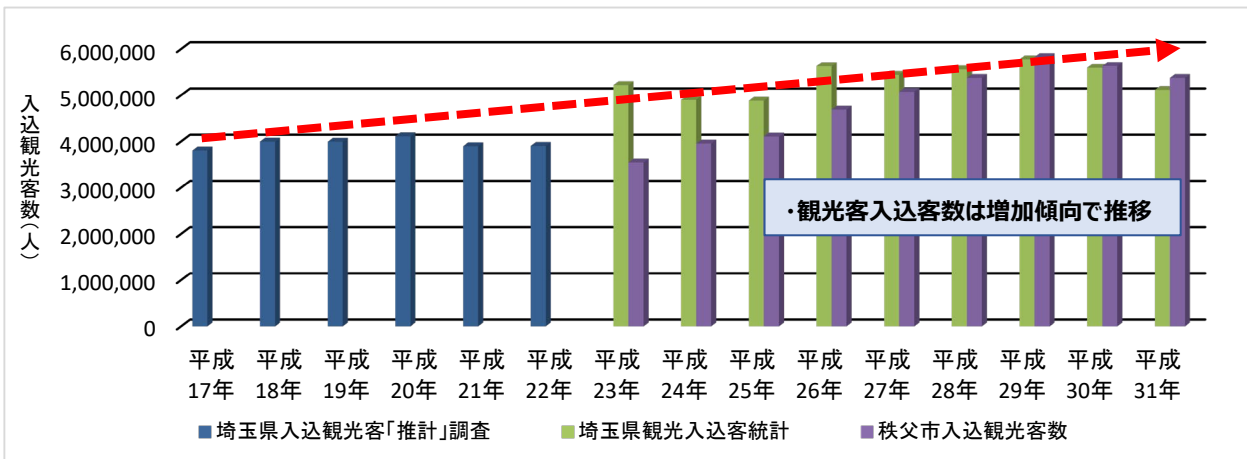


資料：下水道課資料

(9) 観光

- ・観光客の入込数は増加傾向にあり、近年は500万人台で推移するなど、多くの観光客が秩父市を訪れています。
- ・観光資源は都市計画区域内外に点在し、中心市街地（西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺）付近には、秩父神社・今宮神社や番場通りなどの歴史ある街並み、道の駅ちちぶ、羊山公園など、多くの観光資源に恵まれています。
- ・市には、秩父夜祭といった無形の観光資源や羊山公園の芝桜まつりなど多くのイベントがあります。

＜観光入込客数の推移＞



【出典】埼玉県入込観光客「推計」調査（埼玉県観光課）：市が報告（公表は圏域単位）

埼玉県観光入込客統計（埼玉県観光課）：観光庁の共通基準に準じる統計

秩父市入込観光客数（秩父市観光課）：埼玉県入込観光客「推計」調査に準じる統計

【注記】平成17～22年は「埼玉県入込観光客「推計」調査（埼玉県観光課）」により整理。平成23年以降、埼玉県観光課が観光庁の共通基準に準じる「埼玉県観光入込客統計」を採用しているため、「埼玉県入込観光客「推計」調査」に準じる「秩父市入込観光客数（秩父市観光課）」を併記する。

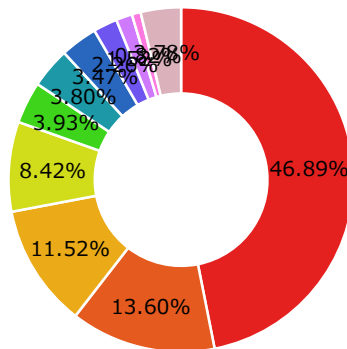
資料：埼玉県観光課、秩父市観光課

＜(日本人)休日14時に指定地域に滞在した人口の居住都道府県別割合＞

滞在人口合計：57,073人（うち県外居住者：4,609人 県外割合：8.08%）

(2019年6月・休日14時)

県外居住者の地域別構成割合



- 1位 東京都(2,161人)
- 2位 神奈川県(627人)
- 3位 群馬県(531人)
- 4位 千葉県(388人)
- 5位 栃木県(181人)
- 6位 茨城県(175人)
- 7位 山梨県(160人)
- 8位 長野県(104人)
- 9位 静岡県(70人)
- 10位 新潟県(38人)
- その他(174人)

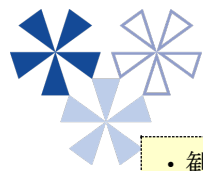
資料：RESAS

【出典】株式会社N T Tドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

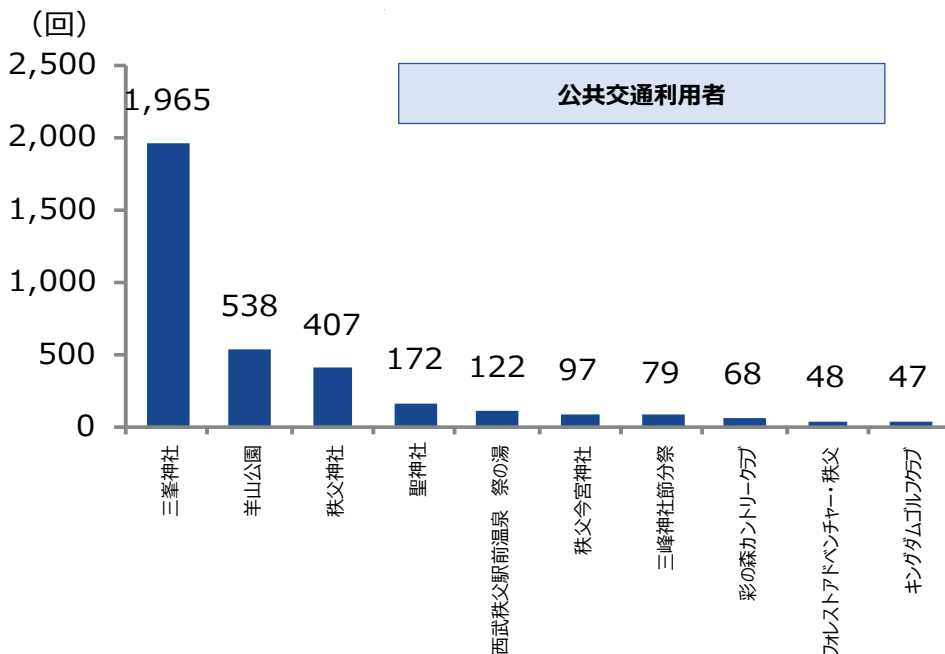
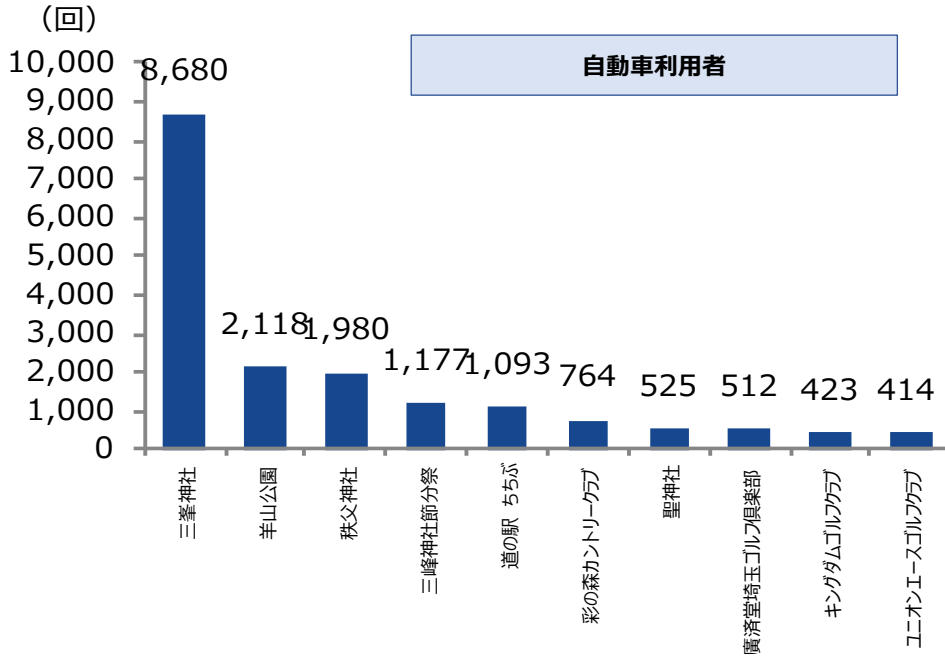
滞在人口率は、滞在人口（株式会社N T Tドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

15歳以上90歳未満の人口を対象。



- ・観光施設を目的とした検索ランキングを交通手段別（自動車・公共交通）にみると、いずれも「三峯神社」の検索回数が最も多く、次いで「羊山公園」、「秩父神社」の順となっており、これらが主要な観光スポットとなっています。
- ・交通手段別（自動車・公共交通）の検索回数をみると、自動車が公共交通よりも多く、自動車による来訪者の多いことがわかります。

＜観光施設等を目的地とした検索回数ランキング（2018年休日）＞



資料：RESAS

【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

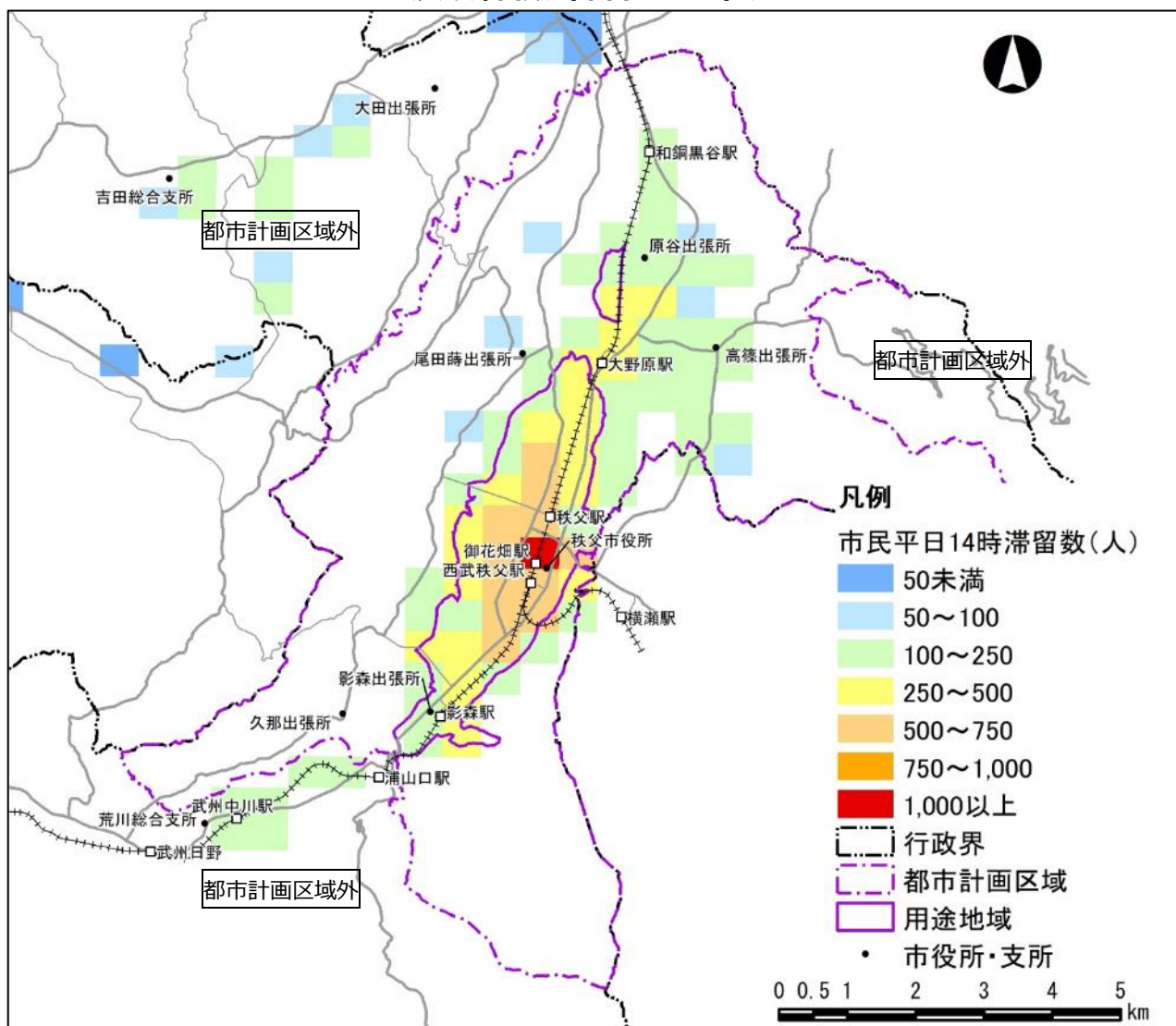
【注記】 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示。

- ・施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
- ・年間検索回数が自動車は50回、公共交通は30回以上
- ・年間検索回数が全国1000位以内または都道府県別50位以内または市区町村別10位以内

(10) 人の行動特性

- ・日中（14:00台）の平日の人の動きをみると、西武秩父駅・御花畑駅付近で特に多くの人々が滞留し、また、中心市街地付近でも多くの人々が広く滞留する傾向が見られます。
- ・平日の昼夜間の増減（23:00－14:00の変化）をみると、中心市街地付近と工場や事業所が立地する範囲で人の滞留数が増える一方、周辺の地域での滞留数は減少するなど、市街地の特性の応じた人の動きがみられます。

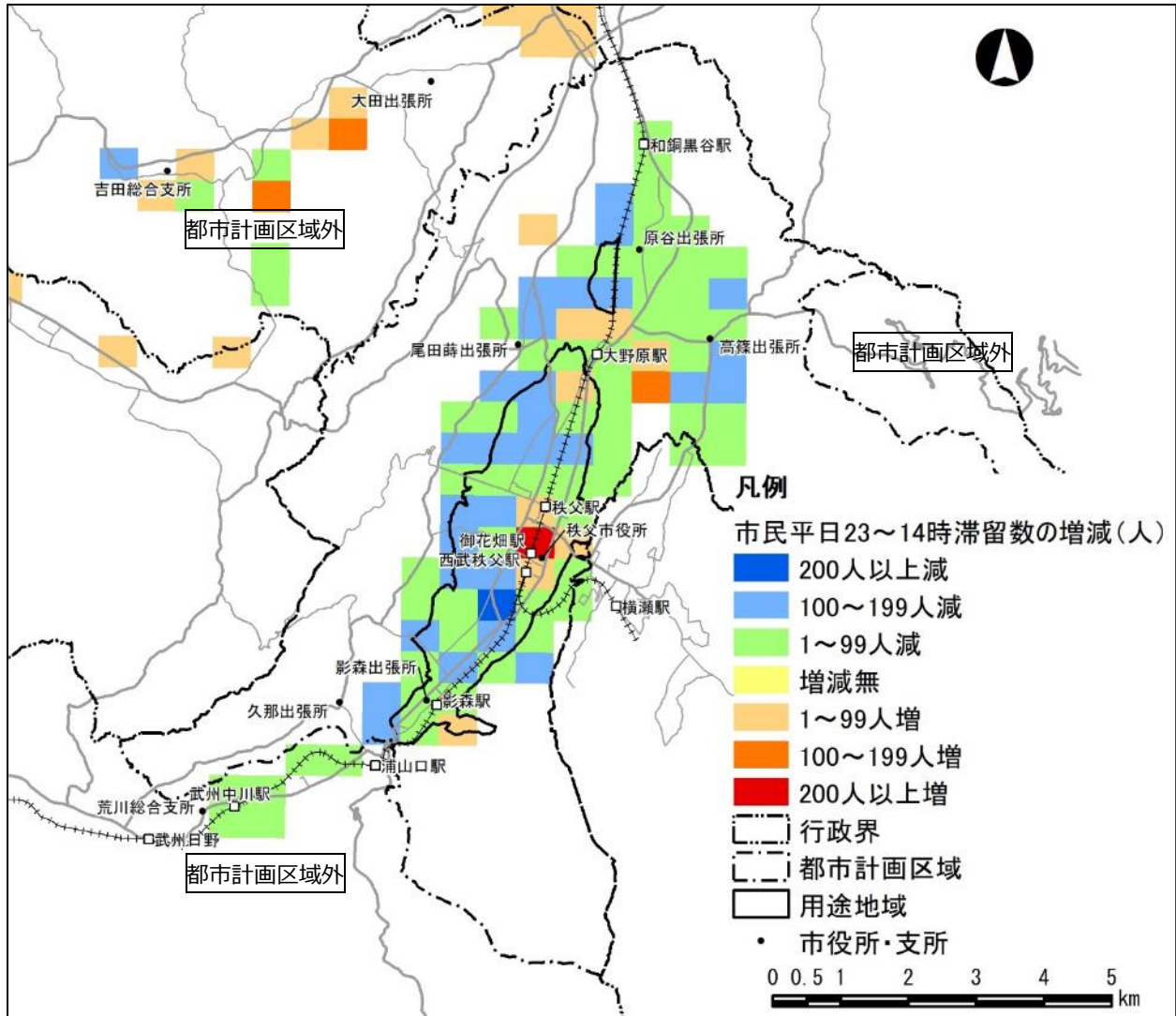
＜人の滞留数（平日 14:00）＞



資料：モバイル空間統計/(株)ドコモ・インサイトマーケティング
 ※メッシュ当たり滞留数が極端に少ない個所においては、秘匿処理（少人数の削除）が行われている



<人の滞留数の増減（平日 23:00-14:00）>



資料：モバイル空間統計/(株)ドコモ・インサイトマーケティング
※メッシュ当たり滞留数が極端に少ない個所においては、秘匿処理（少人数の削除）が行われている

2. 課題の整理

【人口】

- ・20年後の2040(令和22)年には、『総人口4.5~5万人規模、高齢化率40%超』となる人口構成を想定し、中心市街地を核に一定の人口密度(40人/ha程度)を持った市街地を維持していく必要があります。
- ・高齢者になっても「暮らしやすい」環境づくり、若い世代が「住みたくなる」環境づくりに向け、市街地の魅力を高めていくことが必要です。

【土地利用】

- ・古くから市街地として拓けた中心市街地において、建築年数が50年以上の建築物が多く立地し、空き家や空き店舗も多数残されていることから、防災面での安全確保とともに市街地としての魅力向上を図るため、狭隘道路の改善を含めた市街地の更新、空き家や空き店舗の有効活用・流動化に向けた取り組みを進める必要があります。

【都市交通】

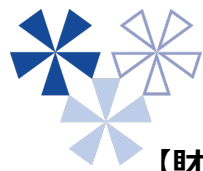
- ・中心市街地へ市民生活に必要な主たる都市機能を集積させ、中心市街地を核に形成される公共交通網の利用意義を高める必要があります。
- ・引き続き道路交通網整備に取り組みつつ、公共交通の利用利便性を高め学生や高齢者に配慮したモビリティの確保に取り組む必要があります。
- ・来訪者の公共交通の利用を促し公共交通の収益性確保につなげていく必要があります。
- ・鉄道駅については、公共交通結節点としてバス・タクシーをはじめとする多様な交通との転換点としての役割が求められています。

【経済活動】

- ・交流(関係)人口の拡大により定住人口の減少による需要の減少を補う必要があります。
- ・中心市街地の魅力向上と併行し、大都市や周辺地域とのアクセス性を高めていくことで、ヒト・モノ・カネ+情報の動きを活発化させ、豊かさにつなげていく必要があります。
- ・多様な産業の立地を促すことで、あらゆる世代が活躍できる雇用機会の創出と経済活動の活性化につなげていく必要があります。

【災害】

- ・災害ハザードエリアにおける安全性を確保するため、想定される被害の程度に応じたハード・ソフト対策を講じていく必要があります。



【財政】

- ・高齢化に伴う扶助費の増大や公共施設の更新費用の増大が見込まれるなど、今後想定される財政構造の変化を踏まえ、持続可能な財政運営を支えるまちづくりを進める必要があります。

【都市機能】

- ・人口減少による公共施設利用や生活支援施設利用にかかるサービスレベルの低下を防ぐため、施設の統廃合を通じた維持・更新や多機能化とともに、公共交通を軸とした施設の相互連携関係の構築などによってサービスレベルを維持する取り組みが必要です。

【都市施設】

- ・道路については、幹線道路を軸として目的に応じた道路ネットワーク形成に向けた改良・整備を進めていく必要があります。
- ・公園については、良好な居住環境の形成に向け、用途地域指定区域において歩ける範囲に公園やオープンスペースが配置されるよう取り組みを進めていく必要があります。
- ・下水道については、施設維持の観点から一定の利用人口が必要なため、供用区域内における居住人口の確保に向けた取り組みが必要です。

【観光】

- ・観光スポットは広い市域に点在していることから、公共交通利用者に向けては中心拠点（西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺）、自動車利用者に向けては交流拠点（道の駅など）を核とした観光ネットワークを構築する必要があります。
- ・それぞれの拠点に観光資源を集約化し、エリアの価値や機能を向上させる取組が必要です。
- ・特に、西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺の旧市街地には、歴史の風情を楽しめる古くからの街並みが残ることから、街並みを歩いて楽しめる環境をつくることも必要です。

【人の行動特性】

- ・西武秩父駅・御花畑駅・秩父駅周辺は、就業者、買い物客、観光客、通学、乗り換えの待ち時間を過ごす人や迎えの人など、様々な人々が行き交う場所となっており、それぞれの来訪目的を勘案しつつ、まちの「にぎわい」の創造と快適な「トキ」を過ごすことができる都市空間づくりを両立させる取り組みが必要です。